



# Business Report 2019

第45期  
通期事業報告書

2018年7月1日～2019年6月30日

株式会社ジョイフル

〒870-0141 大分県大分市三川新町一丁目1番45号 TEL.097-551-7131 (代)

<http://www.joyfull.co.jp/>



# Business Report 2019

第45期通期事業報告書

Restaurant  
Joyfull

## 経営理念 Management Philosophy

私達は、チェーンレストラン事業を通じ、  
顧客・株主・従業員・取引先・社会の、  
精神的・物質的幸福を調和させ、その安定的増進を実現します。

## ジョイフル 店員の誓い Our Promise

私達は、ジョイフルの旗のもと、信頼される品質の店、低廉な価格の店、  
どこにでもあって、いつでも開いている店、気軽に快く過ごしていただける店として、  
永続的・安定的に営業し、皆様に愛される店となります。

## 連結業績 ハイライト Consolidated Results



※当社は、2018年6月期より決算期(事業年度の末日)を12月31日から6月30日に変更しております。  
これにより、2018年6月期は決算期変更の経過期間となることから2018年1月1日から2018年6月30日までの6ヶ月決算となっております。

株主の皆様へ

## 業績の回復を目指し、 より一層の経営努力に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。  
さて、ここに第45期(2019年6月期)の通期事業報告書を作成いたしましたので、  
ご高覧いただきますよう、宜しく願い申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国の経済は、輸出や生産に弱さが  
見られるものの、個人消費の持ち直しの動きや設備投資の増加により、  
緩やかに景気が拡大する状況で推移いたしました。

一方、外食業界においては、雇用・所得環境の改善等にともない、  
消費者マインドに持ち直しの動きがみられるものの、労働力不足による  
人件費の更なる上昇など、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような状況のもと、今後の中長期的な成長戦略を実現するため、  
既存のジョイフルブランドはもちろんのこと、新業態開発を進め、  
子会社を含めたグループ全体のパフォーマンス向上に取り組んでまいりました。

商品施策では、既存商品のブラッシュアップを継続して行い、  
提供品質の向上を進めてまいりました。グランドメニューの改定を2回、  
ランチメニューの改定を1回行い、色鮮やかな商品を取り揃えました。  
メニューブックは更に見やすく、選ぶ楽しさや柔らかさ、親しみやすさを感じ  
いただけるデザインになりました。また、フェアを9回開催したことで、  
飽きのこない商品展開を行うことができました。

営業施策では、店舗状態向上のために店長のマネジメント力や  
従業員のオペレーション力の強化に取り組んでまいりました。福岡県に  
新設した研修施設「ジョイフルカレッジ」を稼働させたことにより、  
研修環境が大きく整備されました。

また、ジョイフル初の公式アプリ「ジョイフルアプリ」を導入  
いたしました。ご来店毎に自動的にスタンプが貯まり、クーポン

などが利用できるお得で便利なスマートフォン専用の無料アプリ  
でございます。このアプリによりお客様の来店頻度の向上に繋がりました。  
更なるバージョンアップを行い、今後のプロモーションに活用してまいります。

以上の結果、当連結会計年度における経営成績は、売上高728億8千2百万円  
(前年同期比9.5%増)、営業利益4億1千4百万円(前年同期比84.7%減)、  
経常利益5億8千1百万円(前年同期比77.8%減)となりました。前年同期比  
で減益となった主な理由は、配送費や労働力不足にともなう人件費の増加、  
福岡センター建設にともなう費用の増加、などがあげられます。

なお、主に営業活動から生じる損益が継続してマイナスとなっている  
ジョイフル店舗や新業態店舗、M&Aにより子会社となった店舗等に対する  
減損など、46億9千万円の減損損失を計上、繰延税金資産を5億3千9百万  
円取り崩したことにより、親会社株主に帰属する当期純損失は49億4千7  
百万円となりました。

当期の業績につきまして、株主の皆様には多大なるご心配をおかけ  
しましたこと、深くお詫び申し上げます。第46期は業績回復のため、  
より一層の経営努力を日々積み重ねてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも当社へのご理解とご支援を  
賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

穴見 くるみ



## 福岡センターの稼働

2018年10月1日に福岡センターが本格稼働しました。福岡センターでは、消費者の食の安心・安全への意識の高まりを背景に、生産管理の強化を行っております。また、太陽光発電施設の導入などにより、環境にやさしいセンターを実現することができました。工場は高度なフードディフェンス対策として、入出者管理、静脈認証システムの導入などを取り入れております。今後はハンバーグ、サイコロステーキ、ソースに加え、商品アイテム数を拡充していく計画です。配送センターはWMS(倉庫管理システム)を導入し、基幹システムとセンター内の各システムを連携いたしました。正確性とスピードアップを実現し、生産性を向上することができております。



## ジョイフルカレッジの稼働

2019年4月に大規模研修施設である「ジョイフルカレッジ」での研修がスタートしました。ジョイフルカレッジには店舗と同様の設備が整っており、ピーク等を想定したオペレーションの研修が可能です。また、宿泊室として80室の個室があり、研修内容や研修環境を充実させることができました。今後はジョイフルカレッジを十分に活用し、店長・エリアマネジャーのマネジメント技術の向上およびトレーナーの育成に力を入れ、お客様により満足していただける店舗とすることで、1店舗当たりの売上高を高め、利益の拡大に取り組んでまいります。



## ジョイフル初の公式アプリを導入

2019年6月にスマートフォン専用の「ジョイフルアプリ」を導入しました。お客様の来店1回につき1スタンプを付与し、スタンプが5個以上たまると、ポテトフライ無料やジョイカフェ無料などの特典と交換できます。その他には、新商品の情報やトピックスを配信しております。また、販売商品の掲載や店舗検索機能を搭載し、お客様にとって利便性の高いアプリとなりました。



※商品イメージ写真は実際に店舗で提供される盛付とは異なります。

## 成長戦略の推進

新業態では、ジョイフル初のカフェ業態である「並木街珈琲大分中島店」を出店し、「二五十大分都町店」は大分中央町から歓楽街である大分都町に移転オープンしました。また、セルフサービスに特化した「ジョイフルエクスプレス大分中央町店」がオープンしました。2018年9月には、北海道初出店となるジョイフル札幌東苗穂店がオープンし、ジョイフル業態では4店舗を新規出店しました。また、賃貸借契約満了や不採算店舗の閉店にともない、17店舗の退店(新業態含む)を行いました。

### 2018年7月～2019年6月オープン店

- 埼玉春日部店
- 札幌東苗穂店
- 愛知江南店
- ピエラ明舞店
- 並木街珈琲大分中島店
- 二五十大分都町店
- ジョイフルエクスプレス大分中央町店



並木街珈琲大分中島店



二五十大分都町店



ジョイフルエクスプレス大分中央町店

## グループ会社における取り組み

フレンドリーは、既存店を収益性の高い「香の川製麺」へと業態転換を進め、今期18店舗となりました。うどん3玉まで無料のサービスはお客様から高い評価をいただいております。キッチンジローは、2018年10月のキッチンジロー新虎ノ門店を皮切りにリブランディングをすすめ、「キッチンジロー&ほろよいジロー」は今期3店舗となりました。昼は洋食レストラン、夜はバル営業といった従来とは異なるお客様へのアプローチを行った結果、夜の営業の売上は前年を大きく上回りました。



香の川製麺泉大津店

## 核商品の開発と導入



お客様に喜んでいただけるメニュー、核商品となるハンバーグを目指して開発したのが「プレミアムハンバーグ」です。新しいハンバーグを作るのではなく、今あるものをよりよい商品とするため、改良に改良を重ねて開発を進めてまいりました。改良の結果、「プレミアムハンバーグ」は、2019年10月グランドメニューより、「しんけんハンバーグ」に代わり新たに導入することができました。最大の特徴は「厚み」です。従来から提供しているハンバーグよりも厚みを増したことで、ふっくらとしたハンバーグに仕上がりました。肉の配合・挽き目、スパイスの配合も研究開発を重ねた結果、かつてないほどの肉粒感、肉汁を抱えたジューシーな仕上がりが特徴です。すべてにこだわり作り上げた逸品をご用意することができました。

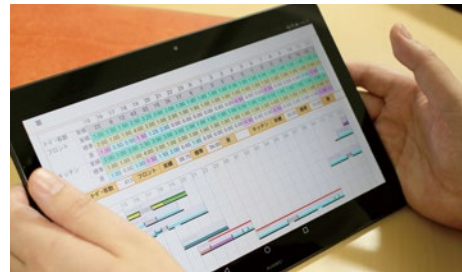
## 商品開発力の強化

年配のお客様やお子様喜んでいただけるメニューや、女性に支持されるデザートメニューの開発を強化してまいります。モニタリングの導入を行い、リアルなお客様の声を商品開発に反映することで、商品価値の向上を図ります。2019年6月のグランドメニュー改定以降、メニューブックは2013年から使用していたマトリクス調のものから、全体的に丸いデザインでお客様に柔らかな印象と、選ぶ楽しさを感じていただけるメニューブックといたしました。今後はさらに、「動的」「抑揚」「円み」を加え、新鮮さを感じていただけるメニューブックへと刷新いたします。



## 勤務シフト作成の自動化

従業員の勤務予定や、その日の作業計画を自動で作成する「Joy-シフト」(仮称)を導入する予定です。店長が店舗従業員の勤務予定作成などのマネジメントに費やす時間を削減させ、従業員教育などに力を注ぐことができます。また、昨今の社会情勢から厳しさを増している労務管理等のコンプライアンスを、自動的に遵守する仕組みを構築することで、働きやすい職場作りを実施いたします。次世代マネジメントシステムの導入により、既存店1店舗当たり売上高の最大化を目指します。



※商品イメージ写真は実際に店舗で提供される盛付とは異なります。

## ジョイフルアプリの活用

2019年6月に全店展開を行い、更なる会員数の獲得のため、7月から9月末まで総額500万円のジョイフルお食事券などが当たるダウンロードキャンペーンを実施しました。これにより、獲得会員数は順調に増加しており、現在約47万人となります(2019年9月末日時点)。今後は、さらにお客様に喜んでいただけるコンテンツやサービスを提供できるよう、バージョンアップを進めてまいります。ジョイフル公式アプリをご利用いただき、日頃からジョイフルを身近に感じていただける環境を創出することで、ロイヤリティを高め、来店頻度を高める効果が期待できると考えております。



## 新デザインへのリニューアル

お客様に食事を気軽に楽しんでいただける場を創出するため、店舗内外のデザインのリニューアルに取り掛かります。全体的に明るいトーンの色合いとし、内装はカフェ風の要素を取り入れた開放的で明るいものといたします。アクセントとなる木目もナチュラルな風合いのものを選ぶとともに、テーブルや椅子などの店内インテリアも、よりモダンで使い心地のよいものへと変更いたします。2019年7月に福岡警固公園前店、大分大手町店がひと足早く新デザインへとリニューアルいたしました。



ジョイフル大分大手町店

## グループ会社における取り組み

キッチンジローは、二毛作業態の「キッチンジロー&ほろよいジロー」への転換により、客数を着実に伸ばしております。フレンドリーは、既存店を収益性の高い「香の川製麺」へと業態転換を進めております。また、今後はM&Aのシナジー効果を最大化させるため、グループ企業としての業務プロセスおよびマネジメント体制の最適化に取り組んでまいります。



キッチンジロー&ほろよいジロー九段下店

連結  
財務諸表

Consolidated  
Financial  
Statement

資産の部

当連結会計年度末の総資産は365億1千8百万円となり、前連結会計年度末に比べ31億9千3百万円の減少となりました。これは主に、有形固定資産の減少9億2千8百万円、現金及び預金の減少6億4千8百万円、のれんの減少7億1千7百万円によるものであります。

Point

負債の部

当連結会計年度末の負債合計は264億1千7百万円となり、前連結会計年度末に比べ29億1千5百万円の増加となりました。これは主に、長期借入金の増加31億4千2百万円、短期借入金の増加5億円によるものであります。

Point

純資産の部

当連結会計年度末における純資産は101億円となり、前連結会計年度末に比べ61億8百万円の減少となりました。これは主に、利益剰余金の減少56億2千5百万円によるものであります。

Point

売上高

売上高は728億8千2百万円(前年同期間比+9.5%)となりました。2019年6月期より連結範囲に、「株式会社フレンドリー」、「株式会社キッチンジロー」、「台湾珍有福餐飲股份有限公司」の3社が加わったことによるものです。

Point

営業利益・経常利益

営業利益は4億1千4百万円(前年同期間比△84.7%)、経常利益は5億8千1百万円(前年同期間比△77.8%)となりました。減益の主な要因は、ジョイフル業態の売上高の減少、配送費や求人費、減価償却費の増加などによるものです。

Point

親会社株主に帰属する当期純利益又は当期純損失

当期純損失は49億4千7百万円となりました。減益の主な要因は、営業活動から生じる損益が継続してマイナスとなっているジョイフル店舗や新業態店舗、M&Aにより子会社となった店舗などに対する減損損失の計上などによるものです。

Point

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 (2018年6月30日)	当連結会計年度 (2019年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産	9,302	8,405
固定資産	30,409	28,112
有形固定資産	22,676	21,747
無形固定資産	874	286
投資その他の資産	6,858	6,078
資産合計	39,711	36,518
<b>負債の部</b>		
流動負債	9,863	11,147
固定負債	13,638	15,270
負債合計	23,502	26,417
<b>純資産の部</b>		
株主資本	15,511	9,844
資本金	6,000	6,000
資本剰余金	2,390	2,315
利益剰余金	10,874	5,249
自己株式	△3,753	△3,720
その他の包括利益累計額合計	△9	△32
退職給付に係る調整累計額	△11	△12
純資産合計	16,209	10,100
負債純資産合計	39,711	36,518

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 (自2018年1月1日 至2018年6月30日)	当連結会計年度 (自2018年7月1日 至2019年6月30日)
売上高	32,187	72,882
売上原価	10,371	23,938
売上総利益	21,815	48,944
販売費及び一般管理費	20,947	48,529
営業利益	868	414
営業外収益合計	136	458
営業外費用合計	96	290
経常利益	907	581
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失(△)	583	△4,164
法人税、住民税及び事業税	381	831
法人税等調整額	26	539
当期純利益又は当期純損失(△)	176	△5,535
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△)	176	△4,947

※前年同期間(2017年7月1日~2018年6月30日)

※金額は百万円未満を切捨表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 (自2018年1月1日 至2018年6月30日)	当連結会計年度 (自2018年7月1日 至2019年6月30日)
営業活動による キャッシュ・フロー	1,527	856
投資活動による キャッシュ・フロー	△4,201	△4,167
財務活動による キャッシュ・フロー	2,919	2,407
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	245	△905
現金及び現金同等物の 期首残高	5,587	5,833
現金及び現金同等物の 期末残高	5,833	5,183

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、8億5千6百万円となりました。収入の主な内訳は、減損損失39億1千3百万円、減価償却費19億2千6百万円であり、支出の主な内訳は、税金等調整前当期純損失41億6千4百万円、法人税等の支払額7億9千3百万円であります。

Point

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は、41億6千7百万円となりました。支出の主な内訳は、有形及び無形固定資産の取得による支出42億3千4百万円であります。

Point

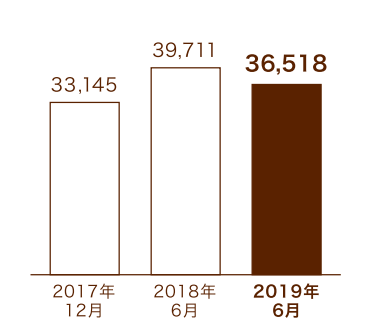
財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果得られた資金は、24億7百万円となりました。収入の主な内訳は、長期借入れによる収入50億円であり、支出の主な内訳は、長期借入金の返済による支出23億5千4百万円であります。

Point

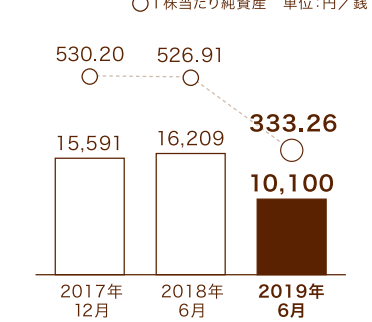
総資産

単位:百万円



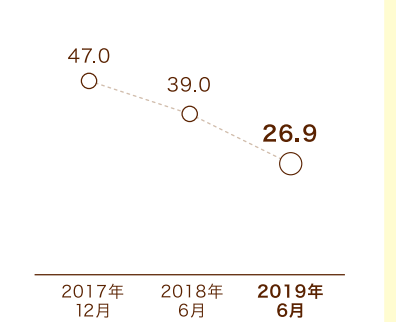
純資産

□ 純資産 単位:百万円  
○ 1株当たり純資産 単位:円/銭



自己資本比率

単位:%



※当社は、2018年6月期より決算期(事業年度の末日)を12月31日から6月30日に変更しております。これにより、2018年6月期は決算期変更の経過期間となることから2018年1月1日から2018年6月30日までの6ヶ月決算となっております。

## 株式情報 Stock Information

株式の状況

発行可能株式総数  
**120,000,000株**

発行済株式総数  
**31,931,900株**

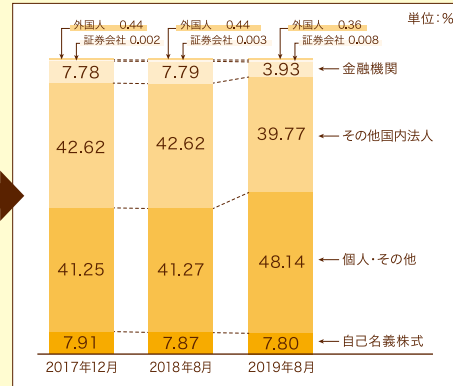
株主数  
**14,119名**

株式の所有者別状況

	2017年12月31日現在		2018年8月31日現在		2019年8月31日現在	
	株主数(名)	株式数(株)	株主数(名)	株式数(株)	株主数(名)	株式数(株)
証券会社	5	818	5	1,004	7	2,782
外国人	17	140,100	19	141,900	20	114,700
金融機関	12	2,485,562	13	2,487,362	11	1,256,286
その他国内法人	98	13,610,280	102	13,610,180	101	12,697,934
個人・その他	13,298	13,170,596	13,517	13,179,718	13,979	15,370,694
自己名義株式	1	2,524,544	1	2,511,736	1	2,489,504
<b>合計</b>	<b>13,431</b>	<b>31,931,900</b>	<b>13,657</b>	<b>31,931,900</b>	<b>14,119</b>	<b>31,931,900</b>

※基準日時点に基づく株主名簿による記載となります。

株式の所有者別構成比率の推移



## 株主メモ

**事業年度** 毎年7月1日から6月30日  
**定時株主総会** 毎年11月  
**基準日** 定時株主総会の議決権/毎年8月31日  
 期末配当金/毎年8月31日  
 中間配当金/毎年2月末(中間配当を実施する場合)  
**単元株式数** 100株  
**株主名簿管理人** 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
 三井住友信託銀行株式会社  
**特別口座の**  
**口座管理機関** 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
 三井住友信託銀行株式会社  
**郵便物送付先** 〒168-0063東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
**(電話照会先)** TEL.0120-782-031(フリーダイヤル)  
 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の  
 本店および全国各支店で行っております。  
**公告の方法** 電子公告の方法により行います。但し、やむをえない事由により  
 電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。  
**公告掲載URL** <http://www.joyfull.co.jp/>  
**上場取引所** 福岡証券取引所

◎**住所変更、単元未満株式の買取等のお申し出先について**  
 株主様の口座がある証券会社にお申し出ください。  
 なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました  
 株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行  
 株式会社にお申し出ください。

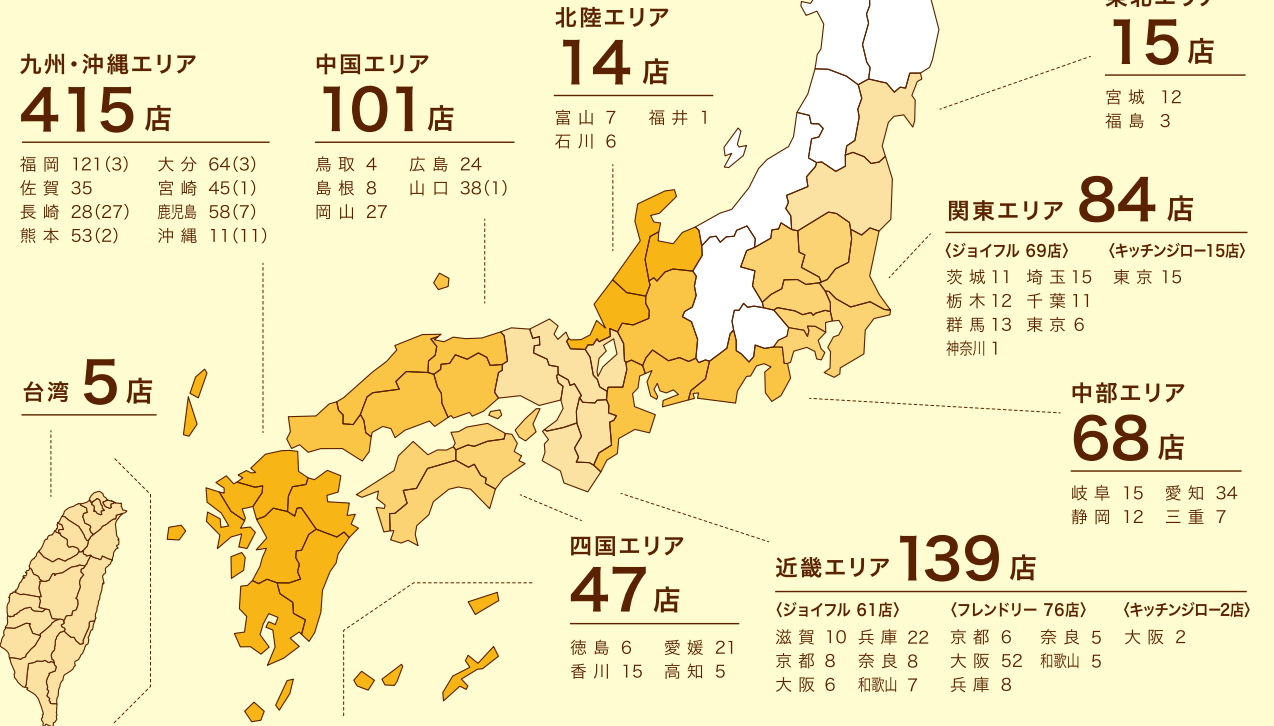
◎**未払配当金の支払いについて**  
 株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出  
 ください。

◎**「配当金計算書」について**  
 配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措  
 置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告  
 を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。  
 なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、  
 配当金支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいて  
 おります。※確定申告をされる株主様は、大切に保管ください。

## 会社情報・ 店舗情報 About Us

グループ店舗一覧 (2019年6月30日現在)

**889店** (うちFC店舗55店 ※( )内はFC店舗)



会社概要 (2019年6月30日現在)

**社名** 株式会社ジョイフル  
**大分本社** 大分県大分市三川新町1丁目1番45号  
**東京本社** 東京都港区赤坂1丁目12番32号アーク森ビル24階  
**福岡センター** 福岡県上郡築上町日奈古186番1号  
**熊本工場・配送センター** 熊本県菊池市袈裟尾字下大迫445番4号  
**愛知工場** 愛知県豊川市御津町佐脇浜三号地1番17号

**創業** 昭和40年6月 **資本金** 60億円  
**創立** 昭和51年5月 **主な事業内容** 「ファミリーレストランジョイフル」のチェーン展開  
**連結子会社** 株式会社ジョイフル北日本/株式会社ジョイフル関東/株式会社ジョイフル東海/株式会社ジョイフル東関東  
 西・北陸/株式会社ジョイフル西関西/株式会社ジョイフル中国/株式会社ジョイフル四国/株式会社ジョイフル  
 北九州/株式会社ジョイフル中九州/株式会社ジョイフル東九州/株式会社ジョイフル西九州/株式会社  
 ジョイフル南九州/株式会社Rising Sun Food System/株式会社フレンドリー/株式会社キッチンジロー/  
 台湾珍有福餐飲股份有限公司/株式会社ジョイフルサービス